

優しさで命救って 「はたちの献血」呼び掛け



献血広報のキャラクター・けんけつちゃんを囲み、献血の周知と目標達成を誓った参加者=9日、県民ホール

読ん
て
る
広
が
る
NIE

新成人に献血の大切さを知ってもらい、多くの

献血につなげようと、2013年「はたちの献血」街頭キャンペーンの開始式が9日、県庁1階の県民ホールで開かれた。市町村の赤十字奉仕団、県赤十字血液センターの職員ら約50人が参加し、期間中の取り組み強化を確認した。

琉球ゴールデンキングスの山城超選手も駆け付け「一人一人の優しさが命を救うので、人生のわずかな時間を献血に分けて

「ください」と呼び掛けた。キャンペーンは2月28日まで。各市町村で開かれる成人式の会場で、赤十字奉仕団がピラを配るほか、2月6日にはパレットくもじ前の献血ルームで大学生が一日所長になり、献血を呼び掛ける。

県赤十字血液センターは期間中、9959件の献血を目標にしている。同センターによると、約10年前から、12月〜2月の冬場に血液が足りなくなるこ

とがあり、九州ブロック血液センターから血液を送ってもらっている。

琉球ゴールデンキングスの山城超選手も駆け付け「一人一人の優しさが命を救うので、人生のわずかな時間を献血に分けて

「ください」と呼び掛けた。キャンペーンは2月28日まで。各市町村で開かれる成人式の会場で、赤十字奉仕団がピラを配るほか、2月6日にはパレットくもじ前の献血ルームで大学生が一日所長になり、献血を呼び掛ける。